

## 高校2年生における自己効力感の形成について — 英語学習の視点から

The development of self-efficacy in 2<sup>nd</sup> year high-school students  
— through English study

若海由美\*  
Yumi WAKAUMI

尾崎啓子\*\*  
Keiko OZAKI

【キーワード】高校2年生、自己効力感、経験、英語学習

### 1 はじめに

高校生が抱えやすい不安やストレス要因について明らかにし、生徒が自らストレスに対する耐性を身につけていくために有効な支援を考えることを目的として、高校生と生活を共にする教師の視点を活かした調査研究を、2011年から2013年にかけて行った。

具体的には、Selye、Lazarus & Folkmanの理論を踏まえつつ、高校生681名(男子343名、女子338名)を対象に、実際にストレスを経験した時に本人が行う現実のストレス対処の行動パターンや、本当はこうありたいと願う理想の行動パターンについて、質問紙調査を実施した。結果を自己効力感やコーピング様式の観点から検討し、ストレスが行動面に及ぼす影響も含めて、性差、学校別(学力別)、学年別、それぞれの観点でまとめて報告してきた(若海・尾崎、2011, 2012, 2013)。

一連の研究から得られた知見として、①勉強をストレスと感じる程度に男女差がみられたこと(若海・尾崎、2011)、②ストレスの様相とコーピング様式、特に大人に相談をして問題解決をしようとするコーピングに関して、学力による違いがみられたこと、③自ら積極的に問題解決をする場合と友人へ相談をして問題解決をする場合には、自己効力感とコーピング様式において学校差を超えた高校生全体としての特徴があったこと(若海・尾崎、2012)、が挙げられる。

さらに、若海・尾崎(2013)では、学年差の観点から検討し、以下3点の特徴が見いだされた。1番目として、勉強をストレスと感じるかどうかと、他者への相談による問題解決の様相が、それぞれの学年で異なっていた。1年生は、現実的には勉強ストレスを感じていなかったようであるが、理想の行動では勉強ストレスがあれば、自分自身で積極的に取り組みつつ、大人や友人への相談もストレス対応の有効な資源として活用しようとしている。2年生では現実的に「勉強ストレス」があると感じ、

友人に相談して問題の解決に向かっている。また、3年生では「勉強ストレス」がないと無気力になってしまっている。これらの結果より、「勉強ストレス」は高校生にとって必要なストレスであり、やる気にさせる「快ストレス」であることが分かった。

2番目の特徴として、友人へ相談をして問題解決をする時には、自己効力感とコーピング様式に、学年を超えた高校生全体としての特徴があった。

3番目の特徴として、自ら積極的に問題解決をする時のコーピング様式には、学年による大きな特徴が現れた。「思考の転換や努力」は、現実の行動、理想の行動共に全学年で正の相関があり、「経験」は、現実の行動の全学年と理想の行動の1、3年生で正の相関があった。言い換えると、理想の行動の2年生にのみ「経験」との相関がなかった。

また、理想的行動として自ら積極的に問題解決を考える場合には、2年生のみ、自己効力感の「心配性」と強い正の相関があった。

高校生活3年間において、2年生は高校生活の中間の学年であり、1年間の高校生活を経て学校生活にも十分に慣れ、卒業後の進路決定までにはまだ多少ゆとりがある時期である。高校生になりたての1年生、受験や就職試験を直前に控えた3年生に比べて、2年生は勉強に対するストレスも少なく、一般的には中だるみの時期と言われることも多い。しかし、若海・尾崎(2013)の調査結果では、2年生は現実的に「勉強ストレス」があると感じており、友人に相談して問題の解決に向かっている。この点について、一般的な認識と実態が異なる結果となっており、注意が必要である。

2年生は、勉強以外でも、部活動や生徒会活動、文化祭など学校の中心となって活躍する場面が多い。高校生活最大の行事である修学旅行においても、企画・立案等、自分たちの力が試される機会がある。2年生の時期にい

\* 埼玉県立熊谷西高等学校/埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員

\*\* 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

ろいろなことを経験し、その中で失敗や成功を通じて学び、自己効力感を高めて3学年に進むことができれば、高校卒業後の進路選択もよりスムーズに行えるのではないかと考える。ところが、前述のように、若海・尾崎(2013)の調査結果では、2年生は、理想の行動で「積極的な問題解決」を望んでいるものの、「心配性」であり、「経験」を有効な手段とは考えていない傾向にあった。

自己効力感の有効性について、野口(1999)は「バンデューラが提唱している自己効力感、自信や意欲の効能であり、達成や対処への可能性である。力強い自己効力感をもつ人は、自分の能力をうまく働かせて困難に立ち向かい、さらにいっそう努力していくことになる」と述べている。また、杉浦(2007)は、「自己効力感が高い場合、不安が低減し、行動が積極的になるなどの様々な適応的变化が生じるとされる」と述べている。これらから、自己効力感、行動変容の大きな原動力となっていることが分かる。

そこで、高校2年生の時期における自己効力感形成に関して、友人に相談して問題の解決に向かうとするこの時期の生徒の特徴を生かしながら、授業(英語Ⅱ)での「経験」を通じてのアプローチが可能ではないかと考えた。1年間取り組んだ授業実践を基に、その可能性と効果について検討したい。

## 2 対象

埼玉県内の県立高校2年生119名。普通科2クラス(男子32名、女子48名)、理数科1クラス(男子29名、女子10名)の計3クラス(男子61名、女子58名)。

## 3 方法

英語Ⅱの年間授業を通して自己効力感の向上を図る活動を取り入れ、学年末に、1年間の授業に関するアンケートを実施した。

## 4 英語Ⅱの授業について

### (1) 英語Ⅱの目標

高等学校学習指導要領(平成11年3月29日)によると、英語Ⅱの目標は、「幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」とされている。そして、英語Ⅱで扱う内容としては、「英語Ⅰで行った、アからエにあげた言語活動を更に発展させて行わせるものとする」と記載されている。

アからエの具体的な内容は以下の通りである。

- ア 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- イ 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- ウ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。
- エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えな

どについて、整理して書く。

### (2) 英語Ⅱの授業構成

使用教科書は、UNICORN ENGLISH COURSE II(文英堂)。

毎日の授業(予習、復習を含む)の流れは以下の通りである。

- ① 初見で辞書を使わずに新しいLessonを通して読み、本文の内容についてのTrue or False(T, F)クイズを実施。【予習宿題】
- ② 教科書準拠の予習ノートを使い、次の授業の予習をしてくる(単語・熟語調べ、本文の内容理解、既習文法の確認、新しい文法事項の確認等が網羅されている)。本文をノートに写す、全訳をノートに書くなどは強制していないが、特に女子には、ノートに全訳を書いて授業中に間違えたところを赤ペンで直している生徒が多く見受けられる。

### ③ 授業

#### (a) 内容理解

単語・熟語の発音と意味の確認、本文のリスニング。その後、パラグラフ単位での本文の内容確認、新しい文法事項、難しい構文の入っている文についての説明。

#### (b) 音読

音読は、内容理解後に行っている。教員の後について数回 Chorus Reading をした後、生徒全員を起立させる。隣同士でペアになり、one sentence ずつ交代で読む。2回目は読む順番を反対にして読む。2回読み終わったペアから座る。その後、ランダムで3~4組を指名し、全員の前で読んでもらう。

#### (c) 復習プリント【復習宿題】

Lesson の各Part 毎に教員がオリジナルで作成。内容は、本文に関する英問英答、授業で出てきた単語や熟語の派生語や反対語の確認、類語や間違いやすい語法の説明、本文に出てきたものに関連した、入試に出やすいポイントの整理(Further Information と呼んだ)、熟語や構文を使ってオリジナルの英作文を書かせる、本文に出てきた内容(発音、アクセント、語彙、構文、文法などが主)に関する入試問題を発展問題として解かせる、新出の文法事項、分かりにくい構文などの構造についての再確認などを取り入れている。

英問英答については、隣同士のペアを活用。各Part 毎に3問用意しており、じゃんけんで勝った生徒は1番と3番を質問、2番は答える方に回る。負けた生徒は逆に1番と3番を答え、2番は質問をすることになっている。この時、分からないところがあれば、生徒たちはペアの相手と確認し合ったり、2人とも分からなければ他のペアに聞いて、一緒に考えることも可能にしている。練習後、ランダムで指名、各問題毎に違うペアに発表させる。指されたペアは練

習の時の質問、答えの役割に関わらず、自分たちでどちらが質問をしてどちらが答えるかをその場で決めて発表している。

実際の授業では、③(b)までで1回の授業、③(c)が0.5～1回のペースで行い、Lessonの各Partは、1.5～2回の授業で完結させている。

### (3) 授業構成の意図

若海・尾崎(2013)から、2年生の特徴として、現実の日々の生活で「勉強ストレス」があると感じ、友人に積極的に自己主張や相談をして問題の解決に向かっていることが明らかになった。一方、2年生は、「心配性」傾向にあり、理想的な行動として自ら行う積極的な問題解決を望んでいるが、「経験」を有効な手段とは考えていないことも分かった。

授業構成の意図として、「勉強ストレス」に対して、友人に積極的に自己主張や相談をして問題の解決に向かう傾向にある2年生の特徴を踏まえた英語の授業を1年間行い、高校生にとって大切だと思われる、「勉強ストレス」を友人との積極的なコミュニケーションを通じて快ストレスとして受け入れ、勉強の楽しさ、英語の楽しさを授業や日々の英語学習を通じて体験してもらいたい、という思いが根底にある。

同時に、理想的な行動をする上で、「心配性」傾向にある2年生に、英語に関するアレルギーや恐怖心を少しでも軽減できるような授業環境を作りたいと考えた。友人との積極的なコミュニケーションを通じて、分からないところを質問し、相談することができる時間が授業中に確保されると、自分が予習で分からなかったことや、答えを導いてみたものの自信がないところなどを、クラス全員の前で発表する前にペアで確認できるので、安心感や自分自身への自信につながるのではないかと考えた。それは今後の行動をする上で「心配性」傾向にある2年生の生徒たちの自己効力感を高めることにはならないかと考えた。そして、1年間このような経験をする中で、3年生になってからは、これらの「経験」を踏まえた積極的な問題解決を自らできるようになってほしいと考えた。

### (4) 授業構成の観点から見た授業中の生徒の様子

3クラスの生徒119人中、彼らが1年生の時に第一筆者が英語Ⅰを担当した生徒はわずか14人である。それも今年度は、普通科2クラス中の1クラスの中に14人全員が集中した。昨年は英語Ⅰを2クラス80人ほど受け持っていたが、今年度はその中のわずか10%ほどの生徒しか連続して受け持っていない。英語Ⅱの授業は、基本的には前年度行っていた英語Ⅰの授業をベースにしているが、オリジナルプリントについてはやや改良を加えた。プリントには、英語Ⅰで学習した復習項目や2年生で英語Ⅱと別に学習している文法の授業における既習事項を必要に応じて入れ、意識的に1年生の授業や文法の授業を復習させる習慣を身につけさせようとしたこと、入試問題

を前年度より多めに取り入れて、やや難易度の高いものにして、受験へのモチベーションを早めに持たせるなどの工夫をした。前年度第一筆者から英語Ⅰを習った生徒にとっては、今年度の英語Ⅱの授業形式は昨年とそれほど大きな相違はないが、前年度第一筆者の英語Ⅰの授業を受けていない105人(90%)の中には、4月当初、やや戸惑いを感じた生徒もいた。戸惑いの中身は、本文の音読や英問英答におけるペアワーク、英問英答そのものを今までにやったことがないことが主であった。しかし、これらの生徒たちもすぐに授業の雰囲気慣れ、1ヶ月もしないうちに、ペアワークや英問英答に対して、戸惑うどころかむしろ楽しんで参加するようになっていた。

プリントの入試問題に関しては、昨年第一筆者の授業を受けていないにもかかわらず、4月当初から全生徒たちの関心が高く、積極的に問題を解く姿が印象的であった。

対象校の生徒の特徴は、全体的に大変素直で真面目であるが、ややおとなしめでのんびりしているところも見られる。毎年、95%以上の生徒が4年生大学への進学を希望しているが、3年生の夏休み明けの文化祭終了後にやっと本腰を入れて受験勉強をし始める生徒も多く、受験本番までに準備が間に合わない生徒も少なからず見受けられる。

こういった生徒たちを少しでも減らしたいと考え、1年生の時から授業プリントには意識的に受験問題を取り入れていたが、同時に英語の勉強は受験のためだけに存在するというような極端な考えを生徒たちには持つて欲しくなかった。そこで、授業では楽しい要素も取り入れるようにした。具体的には、ペアワークの時のじゃんけんや、指名の仕方の工夫、教科書の内容に関連する背景知識や外国の文化や外国の人々の生活スタイル、日本との比較などである。

じゃんけんなどたわいもないことのようにだが、生徒たちは本当に楽しそうにじゃんけんをして、“I won!!”などと言い英問英答の順番を決めたりしている。本文のペア読みについても、1文ずつ交互に読み、反対になってもう一度読むように指示を出しているため、じゃんけんで勝って最初に読もうが負けて後に読もうが結局は2人とも同じだけ読むのであるが、無邪気に、“I won. I will read first.”などと言いながら読んでいる。また、自分が読めないところは相手に聞いたり、相手が読んでいるのを聞いて確認したりし合っている。

指名の仕方は、単語の意味の確認や簡単な質問は、座席表の列で順番に答えさせているが、やや難しめの問題については、ボランティアを募って答えてもらったり、第一筆者が目をつぶって座席表を指で指した生徒に答えさせている。この時、指で座席表を指してから実際に呼名するまでちょっとだけ間をおくのだが、この瞬間が生徒たちにとっては緊張の一瞬らしい。指名されたら指名されたで明るく元気に楽しそうに答えるのだが、「このちょっとしたドキドキ感がいい」とアンケートに書いた生徒もかなりいた。

ペアワーク後のペア読みや、英問英答についてもこの方法で指名しているが、ここでさらにもう一工夫している。ペア読みや英問英答など、ペアワークでの発表については、1人の生徒が指名されたら、ペアは「運命共同体」なので、勿論その相棒も一緒に起立してもらうことにしている。そして、指名後そのペアで相談して、ペア読みの順番や、英問英答の質問する人・答える人については自分たちで役割分担を決めさせている。生徒たちは、「運命共同体」という言葉が気に入っているらしく、1人が指名されると、その生徒が相手に、「運命共同体、どちらから先に読む？」と言ったり、「質問と答え、どちらがいい？」「私、質問でいい？」などと、相手を気遣いながらコミュニケーションを取り、ペアで発表する自然な流れができていく。

教科書の内容に関連する背景知識や外国の文化や外国の人々の生活スタイル、日本との比較などについては、第一筆者自身の体験や経験、知識に基づく話、生徒たちには是非読んで欲しい本や見て欲しい映画の紹介、インターネットや英字新聞に出ている記事の紹介が主である。この時に取り上げた内容については、生徒たちにグループでディスカッションをさせ、発表させる、自分の考えを書かせるなど、発展させた授業展開にすることも定期的に行っている。

## 5 学年末に行ったアンケート結果

1年間の授業を検証するために、学年末に授業アンケートを実施した。アンケートは以下、1～8までは「とてもわかりやすかった / とても役に立った / とてもよかった (以下同様)」「わかりやすかった」「普通」「わかりにくかった」「とてもわかりにくかった」の5つから1つを選択し、理由は自由記述方式とした。9～10については自由記述方式とした。最後に、何でも書ける special corner を設けた。

### 1. 授業中の説明のわかりやすさ (図1参照)

男子の86%、女子の93%が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答している。主な理由は、「説明が丁寧」「文法・ポイントの確認をしっかりとってくれた」「重要なところをしっかりと、丁寧に、強調して教えてくれた」「板書が見やすい」「プリントが文法の確認や授業のまとめに役立った」であった。

一方、わかりにくかった理由として、「分かりやすかったが訳はメモをとりたいたいのでもう少しゆっくり話して欲しかった」があった。

### 2. ペア読みの練習 (図2参照)

男子の77%、女子の91%が「とてもよかった」「よかった」と回答している。主な理由は、「ペアで協力できる」「分からない発音を教え合える」「2人で読むので、分からないところや間違えたところの確認ができる」「音読は大事だと思うし、友達と読むのは楽しい」「ペアだからしっかり発音しないとイケないと思った」であった。

悪かった理由として、「読む練習になるが、自分が遅いと相手の迷惑になりそうだから」があった。

### 3. ペア Question & Answer の練習 (図3参照)

男子の68%、女子の83%が「とてもよかった」「よかった」と回答している。主な理由は、「生徒同士で考えることができる」「学び合える・協力し合える」「分からないところを確認し合える」「相談しながら意欲的に進められる」「自分以外の解答が勉強になる」「楽しかった」「迷惑にならないようにしっかり取り組んだ」「違う解答の時、相談し合うことで英語の理解などが深まる」「Qに対する解答の幅を広げることができた」であった。マイナスのコメントとしては、「1人でもできると思ったから」があった。

### 4. Further Information について (図4参照)

男子の80%、女子の88%が「とてもよかった」「よかった」と回答している。主な理由は、「授業に出てきたところと関連して他のこともプリントでまとめてくれたのがよかった」「役に立った」「入試に向けて動機づけになった」「向上心が湧く」「やる気が増す」「入試を意識すると授業への取り組みも変わるから」「知識が深まる」「理解が深まる」「英語を好きになれた」であった。マイナスのコメントとしては、「難しい」があった。

### 5. 文法説明について (図5参照)

男子の80%、女子の88%が「とてもよかった」「よかった」と回答している。主な理由は、「細かく丁寧な説明」「分かりやすい説明」「納得できる説明」「例文を自分で作ったりして文法になじみがあった」「復習したら模試に活かされた」「入試に対応できると思う」「実際に入試問題はとても役に立つ」「入試に対する意識の向上」であった。マイナスのコメントとしては、「ちんぷんかんぷんな時があるけれど、それは自分の勉強が足りないからだと思います」があった。

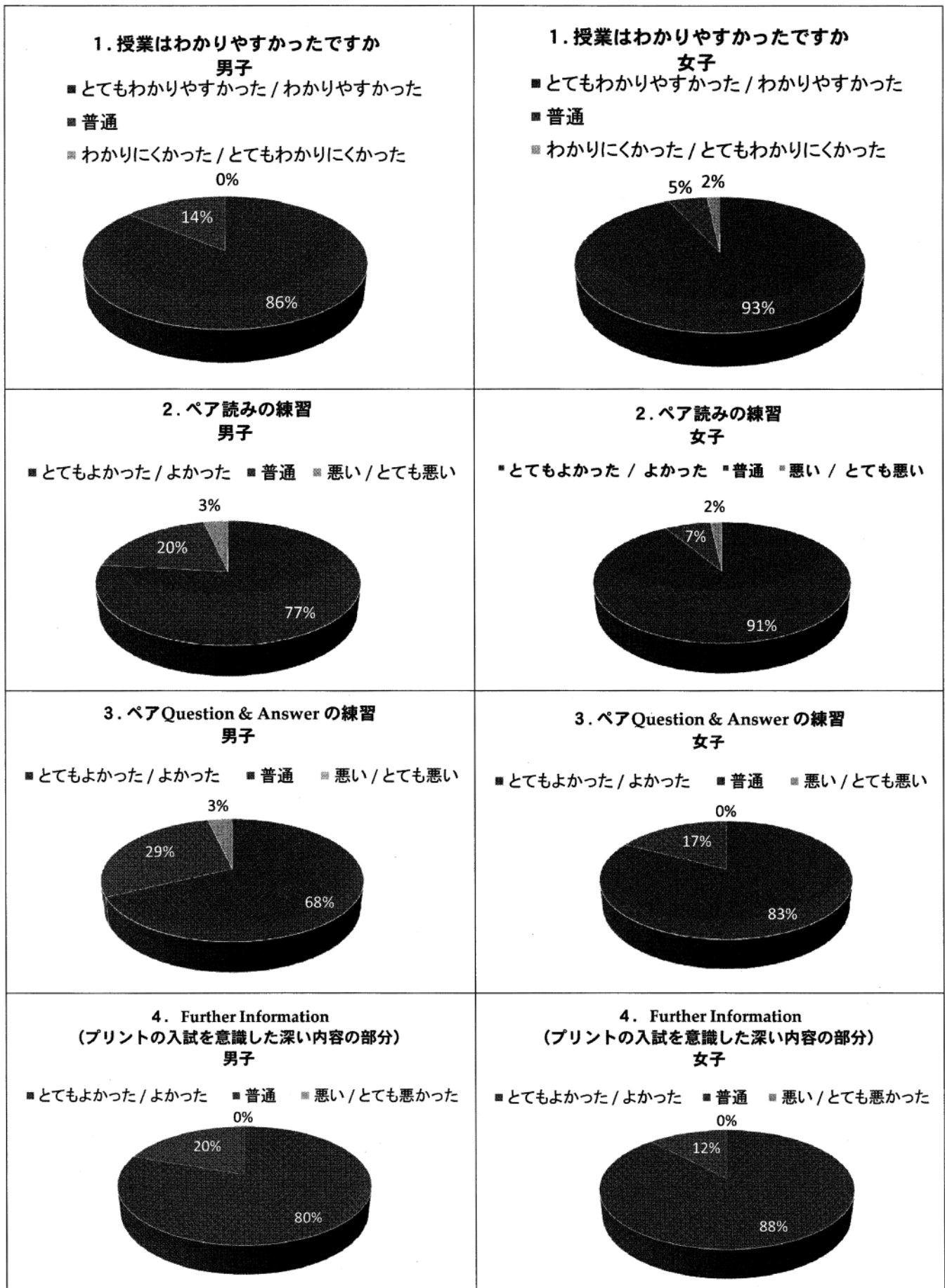
### 6. 英語Ⅱの授業の総合的な判断 (図6参照)

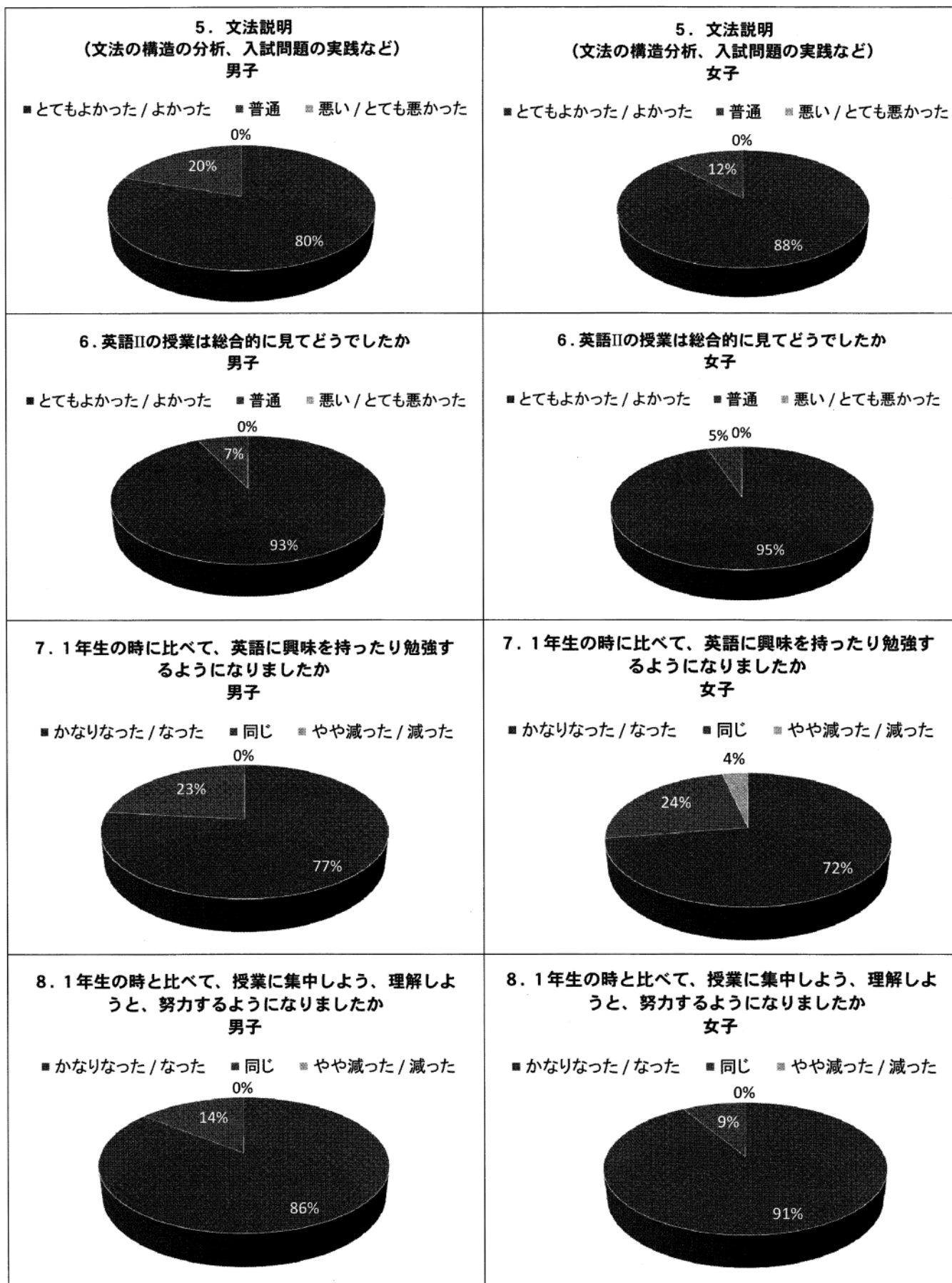
男子の93%、女子の95%が「とてもよかった」「よかった」と回答している。主な理由は、「説明が上手」「分かりやすい」「楽しい・おもしろい」「楽しくて分かりやすい」「ためになる授業だった」「意欲がわいた」「予習で分からない所も具体的な説明があったので分かりやすかった」「読解・文法・読みなど色々やるから飽きないし、勉強が嫌いでも楽しい」「英語が苦手でなくなった」「英語が好きになった」「英語の授業が少し楽しくなった」「入試に出やすい所や文法説明があつて良かった」「英語に対する意欲がわいたし、英語を楽しんだから」であった。否定的な意見はなかった。

### 7. 1年次と比較した、英語への関心と勉強意欲向上について (図7参照)

男子の77%、女子の72%が「かなりなった」「なった」(関心が高まった)と回答している。主な理由は、「予習をすると授業の理解度がアップするのが分かったから」「1年生の時より英語が好きになり、もっと勉強したいと思ったから」「英語の勉強が前より楽しくなったから」「英語により興味を持つようになった」などだが、中には、「英語を勉強することにわくわくするようになった」という声もあった。ここまでは男女共通の理由であるが、

学年末アンケート集計結果







男子に特徴的な理由として、「入試を意識し始めたから」が大変多かった。

「同じ」(変化なし)の理由として、「英語は昔から好きなので、同じぐらいの勉強量だった」「特に意欲がなくなっただけではない」、また、「(関心・意欲が)減った」理由としては、「昨年は毎回単語熟語のテストがあったのでその分多く勉強していた」があった。

#### 8. 1年次と比較した、授業への集中・理解への努力の向上について (図8参照)

男子の86%、女子の91%が「かなりなった」「なった」(向上した)と回答している。主な理由は、「内容が難しくなった」「受験を意識し始めた」「板書が分かりやすい」「説明が分かりやすい」「予習の習慣が付き、予習で分からない所を授業で特に集中した」「英語関係に進もうという明確な目標ができた」「授業が楽しいので自然と集中できた」「いつ自分が当たるかという緊張感があった」「授業が分かりやすくやる気になった」であった。中には、「受験に向かってというものもあるが、単に英語をもっと知りたくなったから」という理由もあった。

「同じ」(変化なし)の理由として、「1年生の時と同じように授業中頑張った」「1年生の時からモチベーションはだいたい同じだった」があった。

#### 9. 授業中の教師の声かけや説明について、興味ややる気を引き出したものの内容

「よく訳せている」「訳し方が上手」「ペア読みでほめてもらった」「上手い訳ができなかったり、間違えたとき、励ましながら上手く間違いを指摘してくれた」「分からないときに少しずつヒントをくれる」「入試や大学の話をしてくれる」「発音・アクセントの説明を聞いてやる気になった」「テストや受験でこれ大事」「勉強の仕方や模試の受け方を教えてもらった」「登場人物のエピソードや時代背景、豆知識など、授業に関することでちょっとしたお話」「先生の元気な声を聞くとやる気になった」「ほめられるとやる気になりました」「質問が分からなくても少しだけヒントをくれるのであきらめないで考えながら答えようとした」「訳が分からなくても、前からちょっとずつでいいからやってみようと言われたとき」など。

#### 10. 英語の教師からの声かけで、英語の勉強に対してやる気が出そうなものの内容

「訳や発音、読みなどをほめられる」「間違ってもいいから、ちゃんと答えてみよう」「努力を認められたとき」「受験の話」「どんなに苦手でも、少ししかできなくても励ますような、ほめるような声をかけてもらえるとそれに応えたい」「間違ったときに、『間違っている』だけでなく、どこが間違っているのか、文法説明や注意点などを教えてもらおうと『頑張ろう!』と思います」「君ならできる」「大丈夫」「外国の話とか、英語の豆知識」「ヒントをくれる」「『理解できていないのは、〇〇だから～をやるとよい』と言ってくれるとき」「勉強をどんなことから始めればいいのか、簡単な目標」など。

#### 11. special corner

「英語Ⅱの授業は、内容の理解や、CDを聞いたり、音

読したり、ペアワークがあったり、いろいろなことができて楽しかったです。もっと英語に興味を持てるようになりました」「1年の時より英語が好きになりました!来年も頑張ります(\*^\_^\*)☆」「先生の作るプリントはとてもためになりました。Writing(今年度受けている文法の授業)と併せて1年間英語をやったら、昨年より英語力が上がっていることに驚きが隠せません」「1年間お世話になりました。この1年で英語への興味を1年生の時より持つようになりました」「1年間楽しく集中してできました」「『drinkだけだったら、飲んでるのはお酒だよ』みたいな、英語常識をもっと教えてほしいです」「私は英語が5教科の中で1番苦手意識があり、点数もあまりよくありません。でも、最近自分なりに努力をしていて、例えば、電車の中で英単語をやったり、頭が良い子に英語の勉強法を教えてもらうなどしています」「分かりやすく楽しい授業なので来年も教わりたいです」など。

## 6 まとめと考察

アンケート結果を見ると、男女ともほぼ授業内容の理解はできていることが分かる。ある程度の柔軟性を保ちながらも、系統的な授業スタイルを1年間継続することで、生徒も安心感を持って毎日の授業に臨めるのではないかと感じた。

文法、語法指導では、丁寧な説明を心がけ基本の定着を図り、それを発展させて入試を意識させたこと、同時にオリジナル例文を作るなどの工夫をしたことで、生徒たちは文法を身近に感じる事ができたようである。

ペア読み、ペアQ&Aに関する感想は、男女差があり、女子の方が男子よりもコミュニケーション活動により積極的であることが分かる。2.3.に書かれている理由から、ペアワークの有効性が確認できたと考えられる。Allan David(2000)は、日本の大学生に対して、「言語習得を容易にするには、学習者のストレスを下げ動機づけを上げることが大切であること。そのためには、まず生徒が個人で書いたり調べた後、グループ活動やペア活動で安心感を与えることが重要である」と述べている。これは高校生にもあてはまるであろう。プリントを各自が宿題でやってきた後に、ペアで確認させていたが、期せずしてAllanの考察を高校生でも実証できた。そして、ペアで確認し合うことで、自分自身への自信の形成と共に相手への気配りもできてきたようである。これらの活動を「経験」する中で、今後の行動に対して「心配性」傾向にある2年生の自己効力感は向上してきたと実感している。

総合的な授業評価は概ね好評であり、「授業を通しての理解は、内容の伝達だけでなく『分かる』という経験になること」(浅海2013)が達成できたのではないかと考える。6.の理由にある「意欲がわいた」「英語が苦手でなくなった」「英語が好きになった」や7.の「1年生の時より英語が好きになり、もっと勉強したいと思ったから」「英語の勉強が前より楽しくなったから」、8.の「授業が楽しいので自然と集中できた」「授業が分かりやすくやる気になった」や10.11.に多数みられる前向きなコメン

トなどから、「自己評価が言語学習動機に肯定的に影響を与える」(山中 2001)ことが確認できる。

本研究は、現実の生活で「勉強ストレス」があると友人に積極的に自己主張や相談をして問題の解決に向かうが、「心配性」傾向にあり、理想では自ら行う積極的な問題解決を望みつつ、「経験」を有効な手段と考えていない傾向を持つ2年生の特徴が基本になっている。英語Ⅱの授業では、特にペアワークの経験を通じて、友人に積極的に自己主張や相談をして問題の解決に向かうという2年生の特徴を生かしつつ、生徒の自己効力感を高める上で1つのきっかけ作りができたと考ええる。また、ペア読みについて生徒が悪かったと感じた点に関しては、今後ペアワークをする際に「相手を気づかう気持ちは分かるが、練習なのでお互い気にしないようにしましょう」と伝える必要がある、と実感した。

10.11. から、教員からの積極的な声かけや励まし、生徒の努力を認める具体的な一言、具体的に明確な指示の仕方によって、生徒たちのやる気の向上、快ストレスとしての勉強ストレスの認識を定着させることがほぼできたと考ええる。教師の具体的な声かけの一言を、生徒がこんなにも明確に記憶しているものかと驚くと共に、教師の発する言葉の一言の重みを痛感させられたことも事実である。

来年度に向けての課題として、最終学年となる彼らに対して、教師からのこれらのアプローチにさらに工夫を加え、生徒に更なるやる気と自信をつけさせ、彼らの自己効力感の深みと広がり育てていきたい。

堀野・市川(1997)は、「何のために学習しているのか」という目的感を抜きにして方略を教えても、それは学習者に教授されない可能性がある」、「『よい評価を得たい』という遂行目標を持つ子どもよりも、『新しいことを学び、能力を高めた』という学習目標を持つ子どもの方が、より高度な学習方略を用いたり、深い記憶処理をする」、「学習行動は、相互に移行しあう複数の動機づけによって多重に支えられている」と述べている。

現在3年生になった彼らにとって、最大の目標は進路実現である。しかし生徒たちには、2年生での授業の経験を踏まえて、英語の勉強は受験のためだけではなく、自分の知らない世界と繋がるための橋渡しとなることを意識しながら、進路実現に向けて取り組んでほしいと願い、現在彼らの授業を進めている。

## 7 本研究の限界と今後の課題

本研究は、授業に関するアンケートを基に分析しており、直接自己効力感を扱った質問紙調査による分析とはアプローチが異なっている。今後の課題としては、アンケートを年度当初と学年末の両方で行い比較することで、授業方法の工夫が生徒の自己効力感の向上に与える影響が、より明らかになると考えられる。

## 引用・参考文献

- 浅海純一 2013 高等学校の自己評価における「生徒による自己評価」の有効性に関する研究 政策研究大学院大学 教育政策プログラム ポリシーペーパー NO. 4
- Allan David 2000 英語教育における的心的要因 帝京平成大学紀要, 12(2), 39-51
- Albert Bandura 1995 SELF-EFFICACY IN CHANGING SOCIETIES Cambridge University Press ( [邦訳] 本明寛・野口京子 2000 激動社会の中の自己効力 金子書房 )
- 柴崎祐子 2004 青年期の友人関係における「自己表明」と「他者の表明を望む気持ち」の心理的要因 教育心理学研究, 52, 12-23
- 嶋田洋徳 1996 自信をつける 児童心理, 9(665), 65-70 金子書房
- 杉浦知子 2007 ストレスを低減する認知的スキルの研究 風間書房
- 野口京子 1999 健康心理学 金子書房
- Hans Selye 1956 The Stress of Life McGraw-Hill Book Co., Inc. ( [邦訳] 杉靖三郎・田多井吉之介・藤井尚治・竹宮隆 1974 現代生活とストレス 法政大学出版局 )
- 平石賢二、長谷川博一 1993 高校生における学校ストレス、自己意識、問題行動の関連 日本性格心理学会大会発表論文集(2), 14
- 堀野緑、市川伸一 1997 高校生の英語学習における学習動機と学習法略 教育心理学研究, 45(2), 140-147
- 三川俊樹 1988 青年期における生活ストレスと対処行動に関する研究 カウンセリング研究, 21(1), 1-13
- 光浪陸美 2010 達成動機と目標指向性が学習行動に及ぼす影響—認知的方略の違いに注目して— 教育心理学研究, 58, 348-360
- 山本ちか 2009 高校生の全体的自己価値の検討 名古屋文理大学紀要, 9, 29-36
- 山中晃 2001 英語の授業中における自己評価の学習者動機への影響(英語教育) 国際基督教大学学報 .I-A, 研究教育43, 219-234
- Richard S. Lazarus & Susan Folkman 1984 Stress Appraisal, and Coping Springer Publishing Company, Inc., New York ( [邦訳] 本明寛・春木豊・小田正美 1991 ストレスの心理学 [認知的評価と対処の研究] 実務教育出版 )
- 若海由美・尾崎啓子 2011 高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響—性差の検討 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 10, 13-20
- 若海由美・尾崎啓子 2012 高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響—学力差の検討 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 11, 1-8
- 若海由美・尾崎啓子 2013 高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響—学年差の検討 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 12, 83-90